

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502306		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームライブラリ美園 2階ユニット		
所在地	札幌市豊平区美園7条3丁目4-24嘉指ビル2・3階		
自己評価作成日	平成28年8月19日	評価結果市町村受理日	平成28年9月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0170502306-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりのんびり生活できるように職員一同ケアに取り組んでいる。笑顔で笑いの絶えない生活環境作りに努めており、入居者様の体調不良にも迅速に対応できるように医療機関・看護師との連携も構築されている。事業所内外の研修にも力を入れ、より良いケアの実践に繋げている。地域との関係を断ち切らないように事業所として出来る事は協力し、地域の行事には積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は商業施設や住宅が建ち並ぶ通りに面しており、地下鉄駅にも近く利便性に優れている。2015年に代表者と事業所名が変更になっているが、地域や利用者とのふれ合いを謳った理念「心と」は継続され職員の介護に於ける指針となっている。管理者が町内会の役員を担っていることもあり、地域の方々からは運営推進会議や行事への出席のみならず「何かあったら いつでも言って・・・」の言葉を頂くなど、地域に溶け込んだ暮らしを継続している。利用者の高齢化や介護度の高さもあり、外出行事は家族の協力を得て個別やグループ対応で花見や動物園、外食などを企画し五感刺激を図っている。ユニット間も良好な関係にあり、全職員で全利用者を支援する態勢が整っている。事業所全体の環境整備に重点を置いている運営法人のバックアップ体制を得て、職員は高い意識を持って知識や技術の習得に努め、利用者がその人らしく生きて行くための支援を日々実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼を実施し理念の唱和を行い共有しケアの実践に繋げている。	理念の見直しを経て、地域と利用者とのふれ合いを謳った「心和」を事業所理念とし実践に努めている。事業所内の掲示や、毎朝の唱和で理念の意識付けを図り、会議時には実践の確認を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており町内会行事には積極的に参加している。お散歩等で近所の方に出会った時には時には挨拶を交わしている。	町内会の方々とは相互の行事に参加があるなど馴染みの関係にある。町内会の夏祭りにはテント席の用意があり、子供神輿やハロウィンでは子供達が訪れ、また、小学校の運動会や学習発表会見学に出掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方にグループホームがある事を認識してもらっており、相談や支援はその都度行っているが、自施設で対応が困難な時には他事業所へも相談している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し事業所内での困り事や現在取り組んでいること等報告している。又ご家族様からの意見についても取り上げサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、定期的に町内会や家族、地域包括支援センター職員が参加して開催され、事業所の活動状況を報告後に事故やヒヤリハット、防災関連等について意見や情報交換が行われ運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の管理者連絡会議の参加や区の担当者、包括支援センター職員と連絡を取りながら協力関係を築いている。	行政担当者とは主に管理者が対応しており、事故報告提出時は担当窓口を訪れ助言や提案を受けている。困難事例等の課題に対しても随時相談をしており、協力体制を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上玄関の施錠は夜間のみ行っている。日々の生活の中で身体拘束に繋がらないか話し合い、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待の防止に向けてマニュアルを整備し、外部研修を受講した職員による勉強会や日々の業務での職員間の気付き、職員会議等で、指定基準に於ける禁止の対象となる行為とその弊害等について学びを深めており、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センター職員による虐待研修を初め日々職員同士が意識しながら虐待に繋がる行為が無いか確認している。会議でも虐待について話し合う機会を設けており、虐待がなされないように注意を払い防止している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で権利擁護に関する研修は行っているが、現在対象はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分に時間をかけ、ご家族様の不安や疑問点を尋ね、事業所で出来る事と出来ない事を明確にし説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際にご家族様から出た意見・要望を聞き運営に反映させている。	家族には、来訪時や担当職員作成のお便りと管理者の手紙を毎月発送し、各利用者の暮らしぶりを伝え、意見や要望の把握に努めている。利用者からは、関わりの中で要望を汲み取り、職員間で情報を共有し、ケアに反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議には管理者以外に部長職も出席しており職員の意見を聞く機会を設け反映されている。	法人役員や統括施設長は会議等で事業所を訪れ、職員からの意見や要望を受け止め、就業環境の整備に努めている。管理者は、研修などの役割を担っている各職員がスキルアップできるよう、要所所で助言をする程度に止めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3か月に一度給与水準の見直しを行っており職員のモチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加し、資格取得の支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修を通じて同業者と交流する機会を持ちサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族様が困っていることがあれば、時間をかけ話を傾聴している。また生活状況等の情報を伺い職員全員で情報の共有や支援について検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前から本人やご家族様の要望、不安に耳を傾け少しでも安心した生活が送れるように信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の状況や思いを汲み取り必要とされるサービスがあれば、ご家族様と相談し利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、お互い助け合い暮らしを共にする家族の様な関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や、月に一度送付するご家族様宛の手紙などで日々の様子を伝えている。困難な事がある時にはご家族様と一緒に考え協力し、共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を設けずにいつでもご家族様や友人が来訪できるようにしている。外泊や外出・電話での連絡支援はいつでも対応できるようにしており、関係が途切れないように努めている。	職員は利用者がこれまで培って来た社会的関係性を把握し、昔話を聞き共感している。家族や友人の来訪を歓迎し、お茶を用意するなど居心地良い環境に努めている。美容室や買い物、墓参り等は、家族の協力も得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の座席の工夫や外出・外食行事、入居者同士交流を図り関わりを持てるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族様が来訪されたり、電話やお手紙で経過を伝えてくれており、常に相談に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日々のケアの中、本人の思いを受け止める様に努力している。毎日の朝礼の中で情報共有しカンファレンスで再検討している。	利用者の表情や言動、家族からの情報や職員の気づきなどで、一人ひとりの要望や思いを推し量っている。日々の関わりから外出や入浴、食事の要望等を受け留め、満足感が得られるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や親しい方が面会に来られた際にはその都度情報収集をしており、現在の生活状況などを見ながら職員で話し合い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活の様子を記録に残すことにより現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について本人、家族の意見を反映するようにし現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、担当職員が利用者や家族の生活への要望を把握し、原案を作っている。管理者や介護支援専門員を中心に医療関係者の意見を踏まえ、全職員の意見や提案を採り入れ、本人や家族との調整を経て作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残しており、全職員で共有している。アセスメント・モニタリングを行い3カ月に1度見直しを行い、状況に変化が見られた時には都度カンファレンスを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個々のニーズに答えられる様に努めている。本人の状態に応じてご家族様と相談し、本人に必要な事を見極めて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加し楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診対応しているが、本人・ご家族様の希望する医療機関受診も対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望で主治医を決定している。協力医療機関による内科医や歯科医による往診体制の確立や、週1回の看護職員による健康管理も行われ、情報は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で体調の変化等があった時には看護師に報告・相談し適切に対応している。日々の健康管理、状態変化にも直ぐに対応できるよう情報の共有もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には頻繁に病院へ足を運び、病院関係者ご家族様と情報交換をし早期に退院できるように支援している。退院時の説明には必ず管理者・看護師・介護支援専門員が同席し、退院時のケアプランにも反映している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できちょうなことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時、または体調に変化があった際に、重度化・終末期についてご家族様に説明を行っている。また、終末期の入居者については、医師・ご家族様・職員と十分に話し合い対応している。	重度化や終末期に於ける指針と同意書を整備している。看取りは経験しており、重篤時には家族、医療関係者と情報を共有、協議することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを整備している。看護師による急変時の研修も定期的に行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練は2カ月に1度定期的に行っている。災害時の対応も研修を通じて行っており地域との協力体制も築いている。	主に夜間想定避難訓練を年6回実施している。年に1回、消防署の指導を受け課題を協議している。建物は鉄筋コンクリート造りで、自然災害時は屋内で待機となっている。系列の事業所や町内会との連携体制も構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライドを大切に、言葉かけや入浴・排泄・着替えなどの対応・誘導もさりげなく行うように対応している。	接遇のあり方は研修や日々の業務の中で学ぶ機会があり、職員間でも注意し合える関係を築いている。穏やかな声かけや自尊心、羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるようにその人にあった声掛けで対応し、出来る限り自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活リズムは作られているが、毎日の生活の中からその人にあったペースを大切に、無理のないように生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候にあった洋服をその日に一緒に選んで着て頂いたりお化粧をされる方にはお化粧ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日には好きなメニューを取り入れたり、配膳・下膳のお手伝いやテーブル拭き等も一緒にできるように取り組んでいる。	献立と食材は業者から届いているが、食事形態に配慮があり、利用者と会話を楽しみながら食卓を共にしている。利用者はおやつや外食なども楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量の把握に努めており、嚥下状態に合わせて食事の提供も行っている。医師・看護師との連携も構築されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、仕上げ磨きは職員が行っている。歯科による口腔清掃も月に2回は行われている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員全員で共有しトイレで排泄できるように支援を行っている。	一人ひとりの排泄状況をチェック表で確認し、トイレへの言葉かけや誘導を行うことで、失敗の軽減に繋げている。重度化した利用者もトイレでの排泄を基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や水分などの提供や適度に運動を取り入れて便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を聞き楽しく入浴できるように努めている。	同性介助や湯加減、入浴剤、湯の取り替えなど利用者の希望を聞き入れ、週2～3回の入浴支援を行っている。拒否がある場合でも毎日声かけを試みるなど清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に合わせて休息して頂いている。夜間安心して眠れるように日中の活動も重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内部研修を通して一人ひとりの薬について理解しており薬剤師・医師と連携し服薬の支援と症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲内での役割やその人にあった楽しみや気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿ってお散歩等の支援をしている。ご家族様と協力しながら外食や外泊の支援も行っている。	利用者全員での外出は困難になっているが、家族の支援も得ながら個別やグループでの外出支援を行い、散歩や買い物、近くの公園での花見、日帰り温泉、動物園などで気分転換を図っている。体調によっては、窓を開け外気浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は少額自己管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人と手紙や電話のやり取りがいつでも出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備委員会によって毎月の掲示物や写真の張替も行っている。季節感のある装飾や室温・湿度・照明の明るさにも配慮している。	共用空間は、清掃や採光、温湿度に配慮があり、利用者が快適に暮らせるよう支援している。各ユニットはそれぞれに季節に因んだ飾り物や、利用者の作品、写真等が掲示され、和める空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ前に椅子を配置しており、気の合う者同士で談笑したり過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品等を持ち込んでいる。ご家族様の写真等を飾ったり、安心して過ごせるように、本人・ご家族様と相談しながら工夫している。	職員は居室の温湿度計を参考に窓を開閉している。利用者や家族が持ち込んだ調度品や趣味の物、写真等が飾られ、自分の部屋として安心して過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には写真、トイレには看板と場所が分かるように工夫している。		